

ネギネクロバネキノコバエ

1 形態と生態

- (1) 成虫の体長は2～3mm程度で形態は蚊に似ており、全身が黒色です(写真1)。翅を持っていますが主に歩行により移動し、植物を食害することはない、寿命は4～6日です。
- (2) 幼虫の体長は最大6mm程度で、黒色の頭に白色半透明の筒状の胴体を持っています(写真2)。ネギ、ニンジン等の地下部に寄生し食害します。25℃では 20 日程度で蛹になります。
- (3) 1世代に要する日数は1か月弱で(25℃)、1頭の雌成虫が 90 個程度の卵を産みます。地下部に寄生した幼虫が、そのまま越冬します。
- (4) ネギではチバクロバネキノコバエも発生し、成幼虫ともに形態がよく似ているため区別が難しいですが、成虫の翅の付け根にある平均棍の色により区別できます(写真3)。その他の区別方法や詳しい生態については農研機構 HP に掲載中の「ネギネクロバネキノコバエ *Bradysia odoriphaga* 防除のための手引き(技術者向け)-2020年改訂版-」をご覧ください。



写真1 成虫 (左: 雌 右: 雄)

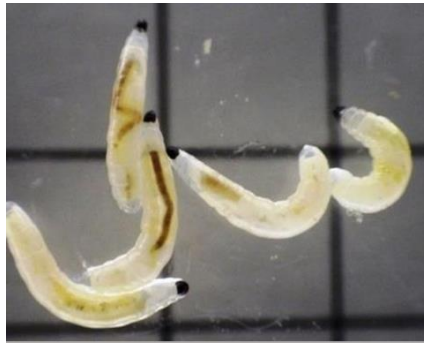


写真2 幼虫

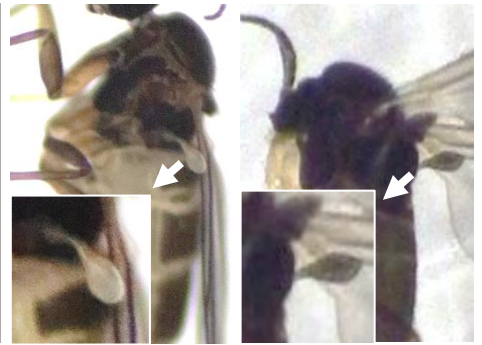


写真3 成虫の平均棍
ネギネクロバネキノコバエ (左) は半透明
チバクロバネキノコバエ (右) は黒色

2 被害の様子

幼虫によって地下部が食害されます。ネギでは盤茎(葉鞘下端にある発根する部位)部を好んで食害し、次第に軟白部(葉鞘)にも食害が広がっていきます。加害初期や虫数が少ないときは、地上部の症状はわずかですが、食害が激しくなると生育が悪くなり、収量にも影響します。

ニンジンでは食害部分は小さいですが、その周辺が黒褐色に変色するため、わずかな食害でも商品価値を失い出荷不能となります。そのため、幼虫の寄生数が少なくても被害が大きくなります。



写真4 ネギの盤茎を食害する幼虫



写真5 激しい食害を受けたネギほ場



写真6 ニンジンの食害

3 発生について

(1) 発生条件

ア 幼虫は多湿を好むので、土中の水分が多い状態が続くと発生が多くなります。

イ 移動力は高くありませんが、周辺に発生の多いほ場がある場合には、侵入してくる恐れがあります。

(2) 発生消長

成虫の発生は、3月中旬から12月上旬まで年6～7回発生し、気温が下がってくる9月以降に発生のピークを迎えます。幼虫も同じ時期に増加し、土中の植物に寄生して越冬します。

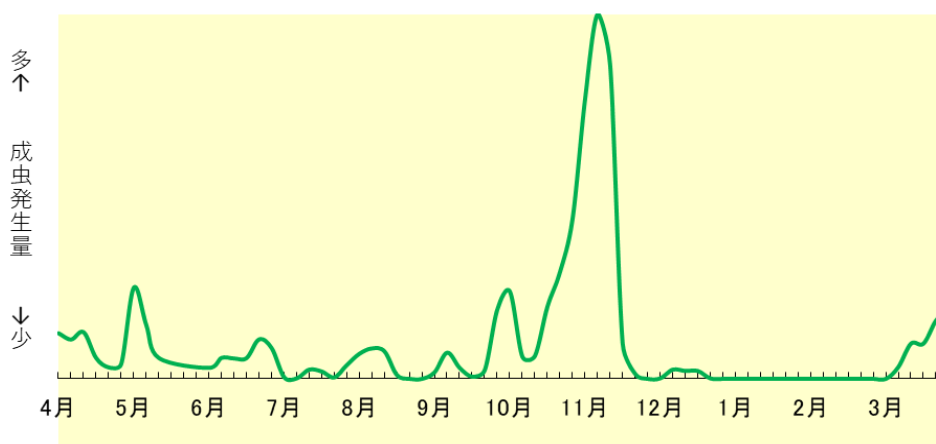


図1 ネギネクロバネキノコバエ成虫の発生消長

4 防除時期と防除方法

(1) 耕種的防除

ア 幼虫は多湿を好むため、ほ場に水が滞留しないよう排水対策を講じます。

イ ネギ・ニンジン以外の作物や雑草にも寄生するので、周辺作物の防除や除草を行います。

ウ ネギの出荷調製残渣にも寄生している可能性があるため、石灰窒素で腐熟させるなど適切に処分します。

(2) 薬剤防除

ア 幼虫は地中に生息しているので、薬剤が比較的届きやすい、土寄せ前までの防除が重要です。

また、定植時及び生育期の粒剤使用も効果的です。

イ 散布の場合は、株元によくかかるようにします。

ウ 1世代の期間は約1か月なので、発生が多い場合は3週間間隔で薬剤を散布します。

農薬を使用する場合は、

- ラベルの記載内容を確認して、使用基準(適用作物、使用時期等)を必ず守って使用しましょう。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一作用機構薬剤の連続使用を避けてください。
- 住宅地や近隣作物等へ飛散しないように必要な対策を実施するように努め、周囲に十分な配慮をしましょう。

■ 発行 令和4年3月 埼玉県病害虫防除所

■ 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661

埼玉県農業技術研究センター病害虫研究担当 TEL048-536-0409



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県